

⑤【単元目標】 事例に気を付けて筆者の考えを読み取り、それに対する自分の考えを広げたり深めたりすることができる。

⑥【単元の言語活動】 筆者の主張を明確にするために読み取ったことを話し合い、主張点に対する自分の考えを根拠とともに発表する。

相手：学級の仲間にも 目的：自分の考えに理由を付けて伝える 方法：発言で 場面：班や全体交流で 評価：自分の考えを広めたり深めたりできたか

④【教材の特徴】

・「初め」で具体的に話題を提示し、「中」で3つの例を挙げて特徴を説明している。それらを『つながり』というキーワードでまとめて「終わり」で改めて考えを主張している。

③【既習事項】

・『想像力のスイッチを入れよう』(5年)では、知識や経験などと関連付けながら読むことを学習した。

②【児童の実態】

○落ち着いた学習姿勢が定着し、既習事項を生かして取り組むことができる。
△自分の考えや読み取りに自信がもてず、書いたり発表したりして表現することが弱い。

①【重点とする指導事項】

・文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。

読むこと (1) カ

⑦【言語活動成立の条件】

ア 文章全体の構成において、「初め」と「終わり」における筆者の考え、「中」における筆者の考えの根拠となる「事実」と「説明」の部分、およびその関係を理解することができる。
イ 考えの中心となる部分を選び、引用しながら自分の考えを書いたり、話したりすることができる。

⑧【単元の流れ】

<p>【第1次】2時間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習の見直しをもつ。 ・『笑うから楽しい』の文章構成や段落の事例から筆者の主張を考える。 	<p>【第2次】5時間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『時計の時間と心の時間』の段落ごとの内容を捉え、筆者の主張を読む。 ・筆者の主張を理解したうえで自分に引き寄せて考える。 	<p>【第3次】3時間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『生き物はつながりの中に』の著者の主張を理解したうえで、自分に引き寄せて考え、発表する。 	<p>交流活動の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人読みを交流する学習活動を積み上げ、仲間から学び合っ意見もちやすくなる。
---	---	--	--

並行読書・・・人や生き物の命のつながりに関する書籍や新聞記事などを紹介し、物事の捉え方に生かす。

⑨【単位時間の工夫】

<p>【第1次】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体を読み、各段落の概要をつかむ。 ・文章全体の構成や、段落相互の関係をつかんで図示して理解する。 	<p>【第2次】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人読みをして交流するという流れで進める。 ・各段落の要点を読み深め、筆者の主張をおさえる。 ・筆者の考えに対する自分の考えを交流する。 	<p>【第3次】〈本時〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えが書きやすいように、「理解(共感)できる・できない」「なぜなら」「始めは～」など、まとめ方の形式例を与える。 	<p>交流活動の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見と比べながら仲間の考えをよく聞き、つなぎ発言で深める活動を継続する。
---	---	--	--

⑩【支える学習環境】

- ・段落ごとの内容と関係が一目で分かるものを作成して掲示する。
- ・話し方や、聞き方のステップ表を掲示して、今の自分の姿を振り返る機会を設ける。
- ・手の届きやすい場所に、並行読書用の図書を置く。

【研究とのかかわり】

(1)

願いを明確にした単元指導計画の工夫

- ・第1次、第2次でそれぞれ著者の考えをつかませる。第2次の後には、筆者の主張から、自分の考えを書かせる。
- ・第3次でも自分の考えを書かせ、さらに仲間の前で発表し合う。

(2)

考えを深めるための指導の工夫

- ・友マークを活用し、意見を出し合う交流の場をもつことで、一人一人の考えをより聞き合う活動を深める。

(3)

自己の高まりを自覚できるまとめ方の工夫

- ・自分一人で考えたことと、交流後して考えたことを比較することで、自分の高まりを実感させる。
- ・自分の考えをまとめる際に、考え方や書き方の形式例を挙げて書きかえさせる。

◆本時のねらい

「生き物として生きていることが、とてもすてきに思えませんか。」「自分も他も大切に思えませんか。」という筆者の主張を捉え、自分の考えを発表して交流し合うことができる。

◆本時の展開（10／10）

	学習活動と児童の姿	指導上の留意点（☆人権教育の視点）
つかむ	1 第6・7段落の要点のまとめを確認する。 第6段落：生き物の特徴のまとめ 第7段落：筆者の考え	・段落の要点を確認する。
	2 本時の課題をつかむ。 筆者が「主張したいこと」は何かを読み、さらにそこから、自分が考えたことを発表しよう。	・本時の課題を理解し、学習活動に見通しをもたせる。
考える	3 一人読みで筆者が「主張したいこと」についてノートに書き、交流する。 ・つながりこそ大事だということがわかる。 ・命はすばらしいものであるということがわかる。 《補助発問》 「“すてき”とはどういうことだろう。」 「なぜ最後に疑問文があるのだろう。」 「それは誰に答えを求めているのだろう。」 『生き物として生きていることが、とてもすてきに思えませんか。』 『自分自身も他も、大切であると思えませんか。』	・一人読みが進まない児童には助言をする。 ・仲間の意見を聞き、どうしてそう考えるのかということまで理解しようとする。
	4 筆者からの投げかけに対し、どう考えるかをノートに書く。 ～に共感できる（できない）。なぜなら～ はじめは～など、まとめ方の形式例を与える。 筆者の、自分や他の命もかけがえのないものだという主張に共感しました。自分の祖父は亡くなったが、その子孫である自分がこうして生きているということが素晴らしいのだと、改めて気付くことができたからです。これからも自分や家族を大事にしていきたいと思いました。	☆共感（納得）した根拠として、知識や体験をもとに書かせる。 評価規準【読む能力】 感じ方や考え方の違いに気付くことができる。（ノート・発言）
深める	5 それぞれの考えを、班で交流する。 仲間の考えを聞き、「なるほど。」と思った考えに友マークを付ける。	・友マークが付けられるように聞かせる。
	6 友マークを付けた仲間の考えを、全体場で発表する。 「自分の考えと同じで～違って～」など、立場を明らかにして話す。	・学習の深まりがあった場面や発言を認める。
	7 4で書いた自分の考えと、5や6で仲間と交流したあとの自分の考えとを比較し、考えが広がったり深まったりしたかどうかを➤マークを用いて振り返る。	・比較する箇所を具体的に示す。